

2021年度
(令和3年度)

国内放送番組編集の基本計画

放送総局

編集の基本方針

「新しいNHKらしさの追求(※)」。2021年度はこれをキーコンセプトにした新3か年経営計画がスタートする年です。全ての人に「安全・安心」と「正確・良質」で多様なコンテンツを届け、信頼される「情報の社会的基盤」としての役割を果たしていきます。デジタル技術を利用した変革＝DX（デジタルトランスフォーメーション）を意識し、AIなどの最新技術やインターネットの双方向性を生かしながら、一人ひとりに最適化した情報を提供します。SDGs（国連が採択した持続可能な開発目標）の考え方も踏まえながら、NHKは公共メディアとして、視聴者のみなさまの期待に応えます。

将来にわたって視聴者のみなさまから信頼され続けるために、放送法で定められた公共放送の基本姿勢を堅持します。自主自律と不偏不党を貫き、表現の自由を守るとともに、健全な民主主義の発達に資する放送・サービスを提供します。正確な情報を公平・公正に伝え、多彩で質の高い番組を追求していきます。

新型コロナウイルスによる感染拡大と経済への深刻な影響は、依然続いています。厳しい時代と向き合い、社会の“分断”を乗り越えるために、「共生社会」「多様性」といった視点を意識したコンテンツを届けます。

私たちの暮らしは、超大型台風に代表される世界的な異常気象、全国どこでも起きうる大地震など、大きなリスクを抱えています。視聴者のみなさまの安全・安心を支える情報を広く、深く伝えていきます。また、地域社会への貢献はNHKの大きな役割です。NHKの強みである全国ネットワークを最大限に生かし、地域の発展をさまざまな形で後押しします。そして2021年度は、東京と北京という2つのオリンピック・パラリンピックの開催が予定されています。ウィズコロナを意識し、状況にあわせて最高水準の放送・サービスを構築します。

視聴者のみなさまの声をいただきながら、受信料で支えられる公共メディアとして、正確な情報、学びの機会や家族で楽しめる娯楽など、真に役立つ放送・サービスを多様な伝送路を通じて届けます。

(※) 新しい時代にも、NHKは放送やインターネットを活用し、信頼される「社会的基盤」としての役割を果たしていくとともに、創造性を大切に、社会や人々の価値観の変化をとらえながら、常に新しいものに挑戦していくメディアでありたいと考えています。NHKは視聴者のみなさまの幅広い関心・期待に応えるため、放送法に定められた基本原則を堅持しながら、豊かで、心を揺さぶられるようなNHKならではの体験を、多様で質の高いサービスを通して、合理的なコストで、広く国民の皆様に提供したい。それが私たちの追求する「新しいNHKらしさ」です。

編集の重点事項

1. 命と暮らしを守る放送・サービスで、安全で安心な暮らしに貢献

2020年、世界は新型コロナウイルスという未曾有の疫病に襲われました。そして国内では、各地で起きる大地震、頻度を増す超大型台風の影響、記録的な大雨や暴風などの異常気象で、私たちの暮らしは脅かされ続けています。

コロナ禍にどう向き合えば良いのか、国内外の最先端の動きを取材し、現状や課題、解決策等について、正確かつ深く伝えていきます。

大規模災害が発生した際には、全国の放送局と本部が連携して被災地に必要な情報を届ける体制を確保し、状況に応じてテレビとラジオ、インターネットの伝送路を使って的確な情報を発信し、「命と暮らしを守る報道」に全力で取り組みます。

東日本大震災をはじめとする全国の被災地の復興を支援し、原発事故後の対策などについても継続して伝えます。

中長期的な視点でもコロナ禍や災害、地震などを継続的に深く取材し、さまざまな視点で課題を見つめ、防災・減災につながる情報を提供したり、課題と向き合う人間の姿をドキュメントしたりします。

2. コロナ後を見据え、日本と世界の課題に向き合う情報を発信

新型コロナウイルスの感染拡大という大きな災厄が世界を覆ういま、医療・防疫と経済の両立や人間同士の絆、抗ウイルス薬やワクチンを製造する科学技術力など、私たちはさまざまなことが試されています。

また、経済的な格差、性や人種による格差や差別の問題は解決に向かうどころか、深刻化しているようにも見えます。国内でも、膨らみ続ける社会保障費や厳しさを増す安全保障環境など、課題は山積みです。

どうしたらSDGsを踏まえた、持続可能な社会を築けるのか、正確で公平・公正な情報を、早く、深く、わかりやすく伝え、判断のよりどころとなる「情報の社会的基盤」の役割を果たします。また、それぞれのテーマについて多様な論点を番

組やデジタルコンテンツで伝えるほか、ドラマやアニメなども含め、さまざまな手法で、いまと向き合う人々の姿を描いていきます。

デジタルツールも活用して、視聴者のみなさまとの双方向性を強め、情報提供や番組への参加を積極的に進めます。

3. NHKらしい多彩で質の高いコンテンツを幅広い視聴者に提供

ニュース、教育、福祉や教養、趣味実用、ドラマ、エンターテインメントなどのジャンルでも、視聴者のみなさまの期待と関心に「正確」「公平・公正」「安全・安心」「良質」「多様」等のキーワードで応えてきました。それをさらに推し進め、視聴者のみなさまの評価を物差しにしながら、インターネットも適切に活用して新しいNHKらしさを追求し「公共的価値」をしっかりと届ける編成をめざします。

ひとつのコンテンツを一人でも多くの方に届けきるために、マルチユースを一層推進し、インターネットサービスでは、放送では伝えきれなかった情報をより使いやすい方法で提供します。

4. 地域で制作されたニュースや番組の全国発信を強化

全国各地の放送局は地域の人々の視点で、暮らしに役立つ情報や関心の高いテーマ・課題などを積極的に取り上げ、地域社会や住民のみなさんに貢献します。

それぞれの地域の視点で制作したニュースや情報番組などは、全国ネットワークを生かし、全国放送でも積極的に放送します。地域の課題、今に息づく伝統文化、たくましく生きる人々の暮らしなど“地域の今”を日本中の視聴者のみなさまに伝えていきます。NHKプラスでも地域の番組を提供します。

首都直下地震など大規模災害発生時の東京・渋谷の放送センターバックアップ機能や、地域情報発信の充実・強化を一層図るため、大阪拠点放送局の機能を強化します。

5. 多様な価値を認め、ともに生きる社会をめざした放送・サービス

“分断”が社会のキーワードとしてクローズアップされる時代ですが、多様性を認め合い、お互いを尊重しあえる「共生社会」の大切さを再認識し、その実現を支えるために、放送・サービスを充実させます。

障害のある人もない人も、どんなジェンダーの人も、そして国籍や年齢に関わりなく、多様な人たちが、生き生きと過ごすことができる社会の実現には、どのような課題があり、どのように取り組めばいいのか。ニュースや番組では、現実をさまざまな形で伝え、課題や解決策を考えていきます。

NHK自身の取り組みとしても、見やすく、聞きやすく、安心して視聴できるよう、字幕放送・解説放送・手話放送などのユニバーサル放送・サービスのさらなる充実に取り組みます。また、出演者の選定にあたっては、ジェンダーなど多様性を意識するとともに、新たな視点を入れるよう努め、番組をより豊かにします。

6. これからの社会を担う青少年や子どもの教育、健全な育成を支援

将来を豊かにしていくために、その時代を担う青少年や子どもが健やかに育つことは欠かせません。

ウィズコロナで学習機会の確保が課題となっていますが、個別学習にも対応できる番組やデジタルサービスの提供に努めます。インターネット空間の中でも安心して信頼して使え、新しい価値や世界と出会えるNHKならではのサービスで、新たな時代の学びをサポートします。

子どもの知的好奇心に答え、豊かな心を育む、そして親子が安心して視聴できる番組の充実に努めます。

多くの人から期待が高い分野であり、放送とデジタルサービスを有効に連携させることで、それに応えていきます。

7. 日本を世界に、世界を日本に 相互理解を促進する発信を強化

コロナ禍までインバウンドが過去最高を記録していたように、日本と海外の距離は年々縮まっています。一方で新型コロナウイルスの感染拡大によって、グローバル化の思わぬ弱点が可視化されました。

世界では今何が起きているのか、今後どんな道を進もうとしているのか。そうした声に応え、国際社会との相互理解を進めるため、世界の情勢や各国の動向を正確に深く伝えます。

また、世界各地の魅力あふれる自然や生物、文化、芸術などを、高精細映像も活用して紹介します。日本の魅力や文化についても、コンテンツの国際展開などを通じて、世界に発信します。

8. ウィズコロナを意識したオリンピック・パラリンピック放送を実施

2021年度は東京と北京で2つのオリンピック・パラリンピックの開催が予定される歴史的な1年です。また“東京2020”は新型コロナウイルス感染拡大防止に取り組みながら開催を目指すという意味でも、過去に例のない大会になります。

世界最高のアスリートたちの祭典を余すところなく伝え、スタジアムの興奮と感動を日本全国で体感できるよう取り組みます。

また、競技にとどまらない、世界と日本人たちの、文化・芸術などさまざまな分野での国際交流など、将来の社会や文化の向上・発展に貢献できるよう、レガシーを意識しながら伝えます。

最高水準の放送・サービスの質は堅持しつつ、ウィズコロナを意識して、状況にふさわしいサービスを提供します。

以上の重点項目は、次のような施策も勘案しながら実施します。

○NHKは公共メディアとして、特定の指標に偏らず、多角的な視点から番組を評価することが重要であると考えています。これまでの質的、量的評価の指標を進化させ、番組やジャンルごとに的確に評価を行い、わかりやすく示します。

○「新しいNHKらしさ」を追求するため、「波」別の個別番組管理から、より全体をふかんでできる「ジャンル」別の総合管理へ転換します。番組を「ニュース（解説）」「スポーツ」「教育・次世代」「福祉」「ライフ・教養」「趣味・実用」「ドラマ」「エンターテインメント・音楽」「伝統芸能・クラシック」「アニメ・映画」という10のジャンルでわかりやすく分類し、ジャンルごとに適切な資源管理を行いながら、視聴者のみなさまにお届けする放送・サービスの価値を最大化します。

○放送・デジタルサービスなどすべてにおいて、自らの発信が「公平・公正」で「正確」な内容であるのか、また、人権や多様な価値観を尊重しているのか、メディアリテラシーの向上に努めながら不断に検証し、放送倫理やコンプライアンス意識を徹底します。長年培ってきた取材力・制作力を発揮して、事実に基づく確かな情報の提供と質の高い番組の制作に努めます。

○ウィズコロナを前提に、NHKの業務に携わるすべての人の健康確保に留意して、創造的で活力ある職場を構築するために、リモートを積極的に活用したコンテンツ制作、リモート勤務推進・業務フローの抜本的見直しなどの働き方改革やダイバーシティ施策の推進、職場環境の整備に取り組みます。

○2K（ハイビジョン）・4K・8K番組の一体制作、国際放送向け番組・地域向け番組・全国向け番組のマルチユースなど、さまざまな放送波・時間帯での番組のマルチユースをさらに進め、限られた経営資源を効果的・効率的に活用します。

各波の編集方針

総合テレビジョン

基幹波として、安全・安心を支え、正確・迅速な報道に全力をあげて取り組みます。また、公共メディアの実現に向けて、公平・公正で社会の指針となるニュースや娯楽・文化・スポーツなどの多彩な番組を最新の技術を導入し、DX（デジタルトランスフォーメーション）を進めながら充実させます。東京、北京の2つのオリンピック・パラリンピックでは、数多くの競技中継や関連番組を通じ、幅広い視聴者のみなさまの関心に応えます。地域の発信力をさらに高め、地域サービスの向上を図ります。また、さまざまな手法で社会的な課題の解決に取り組むキャンペーンを展開します。

〔放送時間〕

○1日24時間を基本とします。

〔放送番組の部門別編成比率〕

○定時番組について、教養番組20%以上、教育番組10%以上、報道番組35%以上、娯楽番組20%以上を編成します。

教育テレビジョン（Eテレ）

教育、福祉などの重要課題に加え、語学・教養・趣味実用など多彩な番組を編成し、教育放送として、幅広い世代の「知りたい」「学びたい」に応えます。「NHK for School」のコンテンツをさらに充実させたり、家庭での自学自習を意識した番組を開発したりして、学びの機会を広げます。番組とインターネットの連携を強化し、子ども・若者の接触拡大を図るとともに、誰もが楽しめるユニバーサル放送・サービスをより充実させ、共生社会の実現を目指します。

〔放送時間〕

○1日19時間を基本とします。

〔放送番組の部門別編成比率〕

○定時番組について、教養番組15%以上、教育番組75%以上、報道番組若干を編成します。

BS 1

“ライブ感あふれる情報チャンネル”として、「スポーツ」「国際」「ドキュメンタリー」「地域」の4分野を軸に、刻々と変化する視聴者のみなさまの関心にしっかりと応えていきます。

ウィズコロナの時代に大きく変わりつつある世界や人々の動きを、正確かつ多角的に伝えるニュースやドキュメンタリーを編成します。東京・北京、2つのオリンピック・パラリンピックに向け魅力的な関連番組を編成するとともに、スポーツを通じた共生社会を目指す番組にも注力します。

また、地域関連番組にも力を入れ、豊かな日本の魅力を発信するとともに、地域固有の課題を広く伝えます。

〔放送時間〕

○1日24時間を基本とします。

〔放送番組の部門別編成比率〕

○定時番組について、教養番組20%以上、教育番組10%以上を編成します。

BSプレミアム

個性と見応えを追求した多彩な知的エンターテインメント番組を提供します。宇宙や大自然、芸術、ドラマ、歴史、趣味など、さまざまなジャンルの番組で“スケール感”“本場”“一流”“最前線”にこだわり、格別な満足感を得られるチャンネルを目指します。

〔放送時間〕

○1日24時間を基本とします。

〔放送番組の部門別編成比率〕

○特に定めません。

BS4K

4Kの機動力と高画質の魅力を生かした幅広いジャンル番組を提供し、超高精細映像チャンネルの先導的な役割を果たします。またBSプレミアムと番組編成の一体化を進めます。東京オリンピック・パラリンピック期間中は、競技中継などを通して4Kの魅力を伝えていきます。

〔放送時間〕

○1日18時間を基本とします。

〔放送番組の部門別編成比率〕

○特に定めません。

BS8K

新しい視聴体験に挑戦する世界最先端のメディアとして、未知なる映像文化を切り開く番組を提供します。また、未来に残すべき文化財や芸術を最高水準の映像で記録し、社会貢献の役割を果たします。東京オリンピック・パラリンピックでは、8K独自制作でその特性を生かした臨場感あふれる中継を行い、最高水準の放送の実現に寄与します。

〔放送時間〕

○1日12時間10分を基本とします。

〔放送番組の部門別編成比率〕

○特に定めません。

ラジオ第1放送

安全・安心を担う音声基幹波として、命と暮らしを守る情報を届けます。甚大化する自然災害や新型コロナウイルス等の感染症の広がりに備えて、リスナーのみなさまが必要とする情報を的確に発信するほか、双方向性を生かしたコンテンツや地域発の話題を充実させ、幅広い世代の関心に応えます。東京、北京の2つのオリンピック・パラリンピックでは、さまざまな競技を中継でお伝えします。また、インターネットラジオ「らじる★らじる」を軸にデジタル展開を一層進めます。

〔放送時間〕

○1日24時間を基本とします。

〔放送番組の部門別編成比率〕

○定時番組について、教養・教育番組あわせて25%以上、
報道番組35%以上、娯楽番組20%以上を編成します。

ラジオ第2放送

生涯学習波として、多様な知的欲求に応える番組を編成するとともに、語学番組の充実を図ります。インターネットサービスとも効果的に連携し、“いつでも”“どこでも”学べる機会を提供します。

〔放送時間〕

○1日19時間を基本とします。

〔放送番組の部門別編成比率〕

○定時番組について、教養番組15%以上、教育番組65%以上、
報道番組10%以上を編成します。

FM放送

総合音楽波として、多様で多彩な音楽・芸能ジャンルの番組をバランスよく編成し、リスナーの期待に応えます。魅力的なパーソナリティーを起用するなど、幅広い世代に音楽に親しんでもらうことを目指します。災害など緊急時には、ラジオ第1放送とも連携して機動的な編成を行い、地域情報波として、ライフラインを中心にきめ細かな情報を提供します。

〔放送時間〕

○1日24時間を基本とします。

〔放送番組の部門別編成比率〕

○定時番組について、教養・教育番組あわせて40%以上、
報道番組10%以上、娯楽番組25%以上を編成します。